

埼玉県親善大使レポート Dic.

カトリック国メキシコ

早いものでもう年の瀬の12月です。ですが、やはりここはメキシコ。朝晩は冷えても昼間は日差しは強く、気温は20℃前後まであがります。やはり日本の様な寒さがないせいか冬に迫力がなく、年末だ！という実感もないのが少し悲しいところです。

そして12月といえばクリスマスですね。カトリック国のメキシコではクリスマスを盛大に祝います。なんとメキシコのクリスマスは12月16日～翌年1月6日までと、私たち日本人が知っているクリスマスよりも遥かに長いのです。12月16日～24日まではPOSADA（ポサーダ）と呼ばれ、イエス・キリストの両親、マリアとホセが出産をする場所を探す旅に出ている期間にあたります。このポサーダでは、学校や会社でパーティーが催され、PIÑATA（ピニャータ）と呼ばれるお菓子やフルーツの入ったくす玉を目隠しをしながら割ったりします。



PIÑATA（ピニャータ）には様々な形があります。写真のものは一般的な形で、中にはディズニープリンセスの形をしたものやミニオンズ（アメリカの3Dコンピューターアニメーションのキャラクター）の形をしたものなどがあります。メキシコの子供たちはピニャータが大好きで、ポサーダだけでなく子供の誕生日会などによく登場します。

そして、12月24日・25日はいよいよクリスマス本番です。24日の午前中だけ仕事をし、25日はお休み、という人が多いです。24日の夜には、会場に入りきれないほどの人々が教会に集まり、イエス・キリストの誕生を祝うミサに参加します。

そして年を跨いでもまだまだクリスマスは続いています。余談ですが、メキシコでは、残念ながら、クリスマスが終わらなくても新年最初の月曜日には仕事始めとなってしまいます。今年は1月4日が仕事始めでした。

そしていよいよクリスマス最終日の1月6日です。なぜメキシコのクリスマスはこんなにも長いのか？そして、なぜあまり区切りのいい数字ではない6日なのか？

前述したように、神話では、12月16日からマリアとホセが旅に出て、ある馬小屋を見つけ、その馬小屋で12月25日にイエス・キリストが生まれます。そしてイエスが生まれた時にその夜の一番星が上がり、その星がイエス誕生の知らせとなるのです。イエスの誕生を知らせた星は、東方三賢者をイエスのもとへと導き、彼らが馬小屋へ到着し3つの贈り物をしたのが1月6日だと言われています。

この神話により、メキシコでは、子供たちがクリスマスプレゼントを手にするのは25日ではなく1月6日の朝とされており、しかもそれはサンタクロースからではなく三賢者からのプレゼントとされているのです。ただし、経済的に余裕がある家庭では、サンタクロースからのプレゼントも25日にあるようですが、...

同じイエス・キリストを信仰していても、宗派によりこんなにも大きな違いがあることに驚きです。また日本は宗教に関係なくクリスマスという行事がありますが、こちらに来て改めて、クリスマスとは宗教行事なのだと認識させられました。



メキシコでは、上の写真のように、イエスの生まれた馬小屋に三賢者が来る様子を再現したデコレーションをクリスマスツリーと共に飾るのが一般的です。